

早池峰地域自然環境保全対策検討部会の報告

1 議 題

- (1) 早池峰地域携帯トイレ運営管理体制について
 - ア 令和5年度までの検討状況について [資料1]
 - イ 令和6年度 of 取組及び運営管理体制移行に向けた課題等の整理 [資料2]
 - ウ 令和7年度 of 取組 (案) について [資料3]
- (2) その他
 - 携帯トレイ回収ボックスの設置場所について

2 主な質疑・意見交換内容

- (1) 早池峰地域携帯トイレ運営管理体制について
 - ・携帯トイレ管理体制を行政主体に移行させる場合の課題として、携帯トイレの補充と売上の回収対応があげられ、その対応策として業務委託が考えられる
 - ・業務委託する場合、別途委託料が発生するため、委託料を捻出する必要がある (自治体協議会の負担金から賄う等)
 - ・携帯トイレに係る業務全てを自治体がやるのではなくボランティアと共同で実施していくことで、足りない部分等を補い合いながら対応ができるのではないか
 - ・携帯トイレ管理に従事する日数と業務内容から、事務局側でおおまかな委託料の算定できるので、委託料の試算をしてみてはどうか
- (2) 携帯トレイ回収ボックスの設置場所について
 - ・現在の携帯トイレ回収ボックスは、小田越登山口、河原の坊駐車場、さわやかトイレ、岳駐車場の4箇所に設置
 - ・小田越登山口での回収量が圧倒的多く、『早池峰山＝携帯トイレの山』が登山客に定着してきた現れといえる
 - ・令和7年度以降の小田越登山口以外の回収ボックスの設置について検討したい
 - ・委託業務を担当している県南局保健福祉環境部から、委託料が業務に見合わないとのことので入札不調となっているとの説明あり

3 令和7年度 of 取組について

- (1) 携帯トイレ運営管理体制について
 - ・どの団体 (組織) が携帯トイレ管理の主体となっても、最小限の負担となるよう、課題整理と対応方法を引き続き検討していく (売上利益の範囲内となるよう、委託料の試算を次年度までに事務局にて試算する)
- (2) 携帯トレイ回収ボックスの設置場所について

花巻市に設置している携帯トイレ回収ボックス (河原の坊駐車場、さわやかトイレ、岳駐車場) を一気に撤収するのではなく、段階的に減らすことについて検討。

携帯トイレ運用管理体制（案）

運営組織		事務局体制	
組織	構成員	販売先・方法	資金管理
[現状] 携帯トイレサポート 早池峰	ボランティア団体	・無人ボックス（河原の坊、小田越、山頂） ・コンビニエンスストア（ローソン大迫店） ・観光施設（早池峰ロッジ峰南荘） ・対面（小田越登山口） ※シャトルバス運行期間（6月中旬～8月上旬）	携帯トイレサポート早池峰 （自主管理）
以下、運営体制（案）の提示			
[ケース1] 既存地域協議会 （市主催）	・岩手県自然保護課 ・花巻市、遠野市、宮古市	・現状のとおり（仮定）	行政（地域協議会事務局）
メリット	☆既に組織構成されており、速やかな運営が期待できる		☆既に負担金制度を運用しており円滑な管理が期待できる ☆クラウドファンディングでの運用の可能性がある
デメリット	◎協議会の業務が増える		◎携帯トイレの補充等の委託料が発生する場合、現状負担金での対応は困難
[ケース2] 既存地域協議会 （市主催）	・岩手県自然保護課 ・花巻市、遠野市、宮古市	・現状のとおり（仮定）	民間団体（業務委託）
メリット	☆既に組織構成されており、速やかな運営が期待できる		☆既に負担金制度を運用しており円滑な管理が機体できる
デメリット	◎協議会の業務が増える		◎携帯トイレの補充・回収金回収業務等の委託料が発生する場合現状負担金での対応は困難
[ケース3] 既存推進協議会 （県主催）	・岩手県自然保護課 ・花巻市、遠野市、宮古市	・現状のとおり（仮定）	民間団体
メリット	☆既に組織構成されており、速やかな運営が期待できる		
デメリット	◎協議会の業務が増える		団体として会計を行うため、新たに負担金制度を創設する必要があり、負担金調整等に時間を要する
[ケース4] 既存推進協議会 （県主催）	・岩手県自然保護課 ・花巻市、遠野市、宮古市	・現状のとおり（仮定）	行政（推進協議会事務局）
メリット	☆既に組織構成されており、速やかな運営が期待できる		
デメリット	◎協議会の業務が増える		◎事業予算を持たない協議会であるため、資金管理体制の在り方を一から検討する必要がある。
[ケース5] 新組織 （県主催）	新構成員	・現状のとおり（仮定）	民間団体
メリット			☆クラウドファンディングでの運用の可能性がある。
デメリット	◎構成員の選定等新たな組織構成に時間を要する		◎運営能力のある新たな団体が必要となる

携帯トイレ管理体制移行に係る3市（花巻市、遠野市、宮古市）からのヒアリング実施結果

1 経緯

携帯トイレ管理体制について行政主体に移行させたいとのボランティア団体からの提案を受け、令和5年度までの検討状況を踏まえて、3市にヒアリングを実施した。

[ヒアリングの内容等]

(1) 花巻市 [ヒアリング実施日：令和6年9月17日（火）]

- ・携帯トイレの管理体制について、既存の地域協議会を事務局として移行した場合に、従来のやり方（無人販売方式、携帯トイレ補充作業、資金管理）で市単独で対応することは困難。
- ・携帯トイレの補充・売上金回収は、委託事業として実施することが望ましい。
- ・委託事業として実施した場合に、委託料を確保する必要があり、負担金の増額が考えられる。
- ・現行の携帯トイレの販売は利益が出ていないため、利益の得る販売方法を検討する。
例えば、携帯トイレ500円と早池峰ピンバッチ300円をセットにして1,000円で販売して、差額200円を収益として委託料に充当するといった方法もある。

(2) 宮古市 [ヒアリング実施日：令和6年10月30日（水）]

- ・携帯トイレの管理体制を行政主体の体制に移行するとした場合、課題となるのが携帯トイレの補充と売上金の回収。各販売先への補充・売上金回収を、行政直営で実施することは困難。
- ・例えば、シャトルバス運行期間中は、車内で携帯トイレを販売する（販売をバス会社に委託した場合、委託料が発生する）
- ・負担軽減を図るには、無人販売を減らしてもよいのではないか。各販売先の売上金を調査して、売上状況により販売先を選定してはどうか。
- ・携帯トイレの販売＝利益の出る販売方法（安価で仕入れて、協力金を転嫁する）を検討してもよいのではないか。ただし、負担の公平性を保つ必要がある。
- ・QRコード等のキャッシュレス決済を導入することで資金管理の負担を軽減できるのではないか。なお、手数料の負担を求められる可能性あり。

(3) 遠野市 [ヒアリング実施日：令和6年10月31日（木）]

- ・携帯トイレの管理体制を新体制に移行するとした場合に、携帯トイレの補充と売上金回収についてはボランティアではなく委託事業として実施することが望ましい。
- ・業務委託するとした場合、地域協議会として別途委託料を捻出しなければならず、負担金増額の検討が必要である。
- ・携帯トイレの補充・売上金回収の負担軽減のため、売上状況をみて無人販売を減らしていくことが望ましい。
- ・キャッシュレス決済の導入により資金管理の負担軽減ができればよい。
- ・携帯トイレの販売の見直しを検討してもよい

2 ヒアリング結果を踏まえた課題と対応案

課題1 運営主体をどうするのか。

- 案1 既存の行政主導の協議会を主体とする。
→ 現状の体制では、増加する業務に対応が困難

- 案2 新たな組織を立ち上げる。
→ 具体的な組織体制については未検討

課題2 携帯トイレの販売方法について、山頂、小田越、河原の坊に設置した無人販売ボックスによる販売としているため、次の対応が定期的に生じている。

- ① 携帯トイレの補充作業
無人販売ボックスへの定期的な携帯トイレの補充作業が生じる
- ② 資金管理
定期的な売上金の回収と売上金の入金作業が生じる

[対応策]

携帯トイレ補充・売上金回収の外部委託

- 委託料の負担増・委託先の確保

携帯トイレの販売としてキャッシュレス決済を導入

- 通信環境により販売できる場所が限定される
任意の協議会が契約主体となり得るか

販売場所を集約する

- 販売場所別の販売数が不明

課題3 現状、携帯トイレは原価 500 円で仕入れ、500 円で販売しており利益が発生していない。

- 案1 原価に手数料を追加して販売する
(例) 携帯トイレ 500 円 + 手数料 200 円 = 700 円で販売する
- 案2 販売価格を変更せず、仕入先を変更する
(例) 仕入値 300 円 + 200 円 = 500 円
- 案3 ピンバッチなど他の商品とセット販売して、利益を確保する
(例) 携帯トイレ 500 円 + ピンバッジ 300 円 + 手数料 200 円 = 1,000 円

(注) 課題3について、携帯トイレの販売価格は、実際のところは300円で仕入れて、200円利益を上乗せして、販売価格500円で販売している。

携帯トイレの販売管理体制の見直しに向けた令和7年度取組（案）

- 取組 1** 携帯トイレ補充と売上金回収業務の委託先の検討
- 取組 2** キャッシュレス決済の導入可能性の検討
- 取組 3** 各無人販売ボックスの販売個数調査を実施し、調査結果について次年度の部会で確認
・調査期間：山開きから冬季通行止めまでの間
- 取組 4** 携帯トイレの仕様等の確認
一般に販売されている携帯トイレの仕様（価格、機能等）についての調査
セット販売できる商品の検討

○携帯トイレ回収ボックスの設置場所について

現在の携帯トイレ回収ボックスは、小田越登山口、河原の坊駐車場、さやかトイレ、岳駐車場の4箇所に設置している。
令和6年度の回収ボックス別の回収実績は次のとおりとなっている。

小田越登山口での回収量が圧倒的多く、『早池峰山＝携帯トイレの山』が登山客に定着してきた現れといえる。
その他の回収ボックスについては、一定数に回収はあるものの小田越登山口で捨てるタイミングを逸した登山者が、回収ボックスを見つけて捨てて行ったことが推測される（回収ボックスがなかったら、そのまま持ち帰ることもできる）
そこで、令和7年度以降、小田越登山口以外の回収ボックスの設置について検討することとしたい。

【令和6年度の携帯トイレ回収実績】

年度	回 収 量 (個)				合計
	岳駐車場	さやかトイレ	河原の坊駐車場	小田越登山口	
R 4	17 (2.6%)	6 (0.9%)	25 (3.9%)	599 (92.6%)	647 (100%)
R 5	32 (4.6%)	1 (0.1%)	57 (8.3%)	601 (87.0%)	691 (100%)
R 6	38 (3.6%)	9 (0.9%)	34 (3.3%)	963 (92.2%)	1,044 (100%)

(参考) 仮設トイレ設置状況及びし尿回収量

年度	基数	設置期間	し尿回収量 (ℓ)
R 4	大小兼用5、小専用1	6/2～10/20	6,750
R 5	〃	6/1～10/20	6,300
R 6	〃	6/1～10/23	7,020